

定 例 教 育 委 員 会 次 第

令和6年5月23日（木曜日）
14時00分～

1 開 会

2 前回議事録の承認

3 議事（公開）

付第3号議案

令和6年度佐賀県教育施策実施計画について

（教育総務課）

4 事務局報告（公開）

（1）令和6年度全国高等学校総合体育大会（SAGAインターハイ）の準備状況について

（全国高校総体2024推進チーム）

（2）令和5年度特別支援学校高等部卒業生の就職状況について

（特別支援教育室）

（3）令和7年度佐賀県公立学校教員採用選考試験の受験申込状況について

（教職員課）

（4）令和6年度第62回佐賀県高等学校総合体育大会について

（保健体育課）

（5）次回定例教育委員会について

令和6年6月12日（水）10時00分～

（教育総務課）

定例教育委員会議事録（案）

- 1 期 日 令和6年4月26日（金曜日）
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 参集者 甲斐教育長、牟田委員、加藤委員、飯盛（清）委員、飯盛（裕）委員、荒木委員、嘉村副教育長、松尾総体 2024 総括監、大橋危機管理・広報総括監、内田副教育長、川崎教育総務課長、笹谷教育振興課長、岡教職員課長、山口学校教育課長、池田生徒支援室長、江口保健体育課長 ほか

4 会議次第 別紙のとおり

5 会議の経過

(1) 開 会 10時00分

(2) 前回議事録の承認

このことについて、甲斐教育長は会議に諮り、委員会は承認した。

(3) 議事

【付第1号議案】

佐賀県立学校の課程等に関する規則の一部を改正する規則（案）について

このことについて、議案書により笹谷教育振興課長が次のとおり説明し、委員会は協議の結果、議案のとおり決定した。

（笹谷教育振興課長）

資料1-2をご覧ください。県立高等学校の課程、学科コース等に関して必要な事項を定める本規則において、伊万里高校スクール・ミッションを踏まえ、伊万里高校に文理融合的な教養を学び、現代社会が通用する課題に学問の視点からアプローチするための基礎的な素養を養う「MIRAI進学科」を設置するものである。アルファベットの「MIRAI」という名称を入れているが、アルファベットの「MIRAI」は、伊万里の未来を担う人材を育成するという意味と伊万里という言葉のアナグラム・並べ替えの意味も入っている。施行期日は令和7年4月1日である。

資料1-4をご覧ください。この学科改編の目的は、県立高校普通科において、社会のニーズや生徒の興味・関心を踏まえ、学科等の見直しに取り組むことにより、唯一無二の誇り高い学校づくりを推進し、県内外からの志願者の増加を図るとともに、地域社会に有為な人材を育成・輩出することを旨とするとしている。

学科改編の概要については、資料1-4の2の表をご覧ください。普通科のうち1クラスをMIRAI進学科として改編することを予定している。なお入試については、くくり募集として、普通科・MIRAI進学科一つで募集することとする。1年次は共通のカリキュラム、2年次から普通科とMIRAI進学科を分けることとし

ている。改編のねらいとしては、生徒自身が自ら学びを深め継続していくことで、地域未来の発展に貢献できる人材、そして高い志を持って文理融合的な幅広い教養とスキルスキルを身につけさせること、そしてそれを行うことにより、多様化する大学入試への対応力を強化する。そういった学科にしていくことを目的としている。募集定員については、7月の定例教育委員会で付議する予定である。

【主な質問等】

(飯盛(裕)委員)

文理融合の学科は、通常だと2年次から習う教科が文系・理系に分かれると思うが、中間に行くことになるのか。

(笹谷教育振興課長)

文系的な要素も、理系的な要素も入れながら、両方の学びをしていこうと考えている。具体的には今後カリキュラムを作成していくが、文理融合した学校設定科目を設定し、大学研究機関との連携や、例えば理系的な学術論文を英語で読むなど、文系理系の枠にとらわれないような学びを実現していきたいと思っている。

(荒木委員)

普通科もMIRAI進学科も、基本的には就職ではなく、大学進学を想定したものを展開していくと考えてよいか。

(笹谷教育振興課長)

そうである。

(荒木委員)

多様化する大学に対応するということは、普通科であっても、他の伊万里高校以外の学校でも必要になってくる要素だと思う。あえて分けるということは、普通科の特色を作っていないといけないと思う。少しカリキュラムを考えるのが難しくなると思っているが、また教えていただきたい。

(4) 事務局報告

- ① 松尾総体 2024 総括監は、令和6年度全国高等学校総合体育大会（SAGAインターハイ）の準備状況について、資料に基づき次のとおり報告した。

(松尾総体 2024 総括監)

資料1-1をご覧ください。佐賀総体は7月23日開幕となり、本日が88日前である。3月27日に実行委員会総会を行い、今年度の事業計画を策定した。

資料1-2をご覧ください。同実行委員会総会で承認された収支予算書であり、総額4億7000万円である。そのほとんどが6競技の大会を運営する費用である。

資料1-3をご覧ください。競技種目別の大会ポスターである。県内の各学校から応募があり、高校生委員会などを含めて審査をし、競技種目別のポスターを決めた。今後、このポスターを見かけることがあるかと思うが、大会に向けて支援をいただきたい。

- ② 岡教職員課長は、令和6年度在外教育施設派遣等教員新規派遣について、資料に基づき次のとおり報告した。

(岡教職員課長)

資料2-1をご覧ください。令和6年度については、小学校教諭1人、中学校教諭1人の計2人を派遣する。派遣先はインドに1人、大韓民国に1人である。また、3月末に3人が帰国しているため、今回の2人の派遣を含めると、4月1日現在で合計6人が派遣されているということになる。派遣先は、アジア地域に5人、アフリカ地域に1人となっている。各地の在外教育施設で使命感を持って業務にあたっている。

【主な質問等】

(飯盛(清)委員)

単身での赴任も可能なのか。以前は男性が赴任する場合は、男性だけでは行けないことや、夫婦で教員の場合はどちらかが休職して帯同することもあったと思う。現在も変わっていないか。今回2人とも女性だがどうなのか。

(岡教職員課長)

男性の単身赴任も可能である。今回2人のうち1人は、配偶者帯同で赴任している。

(飯盛(清)委員)

応募が少なくなっている傾向があると聞いているがどうか。

(岩永教職員課参事)

現在、希望者は増えてきている。

(飯盛(清)委員)

派遣先がアジアに偏っていると思うが、特別な理由があるのか。

(岩永教職員課参事)

国の方で選ばれる。

(飯盛(裕)委員)

一度派遣先に行くと、1年間ほど帰ってこられないと聞いたことがあるが本当か。

(岩永教職員課参事)

基本的には1年間帰ってこられないが、不健康地帯という地域に赴任している場合は戻ってこられるなど、国によって条件が違う。

- ③ 岡教職員課長は、令和7年度佐賀県公立学校教員採用選考試験について、資料に基づき次のとおり報告した。

(岡教職員課長)

資料3-1をご覧ください。令和7年度佐賀県公立学校教員採用選考試験については、今年度から試験期日が1か月前倒しとなり、第一次試験が令和6年6月16日(日曜日)、第二次試験が令和6年7月27日(土曜日)～30日(火曜日)の4日間で実施する。会場は佐賀市内の高校である。

今年度の採用予定者数及び試験実施教科については、資料3-2に示しているとおりである。小学校教諭等が170人程度、中学校教諭等が110人程度、高等学校教諭等で36人程度、全体で362人となっており、前年度とほぼ同じである。

実施要項の配布については、4月1日（月曜日）から資料に示している場所で配布をしている。全国の各大学の事務室等にも送付し、受験者からの郵便請求などにも対応する。受験申込については、原則電子申請でのみ受け付ける。

資料3-4をご覧いただきたい。今年度からの変更点は、1つ目に今年度から新たに3年生からのチャレンジ受験を実施し、教員を目指す学生にチャレンジの機会を増やしている。2つ目に大学・大学院推薦の試験枠を拡大し、全国から広く多様な人材を受け入れていきたい。さらに3つ目に小学校教諭等において5年以上の講師経験があり、学校長から推薦された方は第一次試験を免除することとしている。

【主な質問等】

(飯盛（清）委員)

一般企業よりも先にということで1か月前倒しをされたが、来年は5月になる。今回の場合は、志願者増となれば、効果があったと捉える視点になるのか。

(岡教職員課長)

そうである。今年度の状況やその効果などを考えながら、本県としてどうしていくかを決めていきたい。

(飯盛（清）委員)

合否の最終的な発表は8月なのか。早く決まることは良いが、合格した後の囲い込みなどの手立ても考えないといけないのかなと思う。

(岡教職員課長)

合格発表については、8月23日（金曜日）を予定している。

(荒木委員)

大学3年生のチャレンジ受験や、大学・大学院推薦の試験枠を拡大は佐賀県の取組なのか。全国的に試験期日は早くなるが、佐賀県としてこれらの工夫を行うのか。今年度初めてなのか。

(岡教職員課長)

そうである。大学3年生受験は今年度初めてである。

- ④ 山口学校教育課長は、令和6年度佐賀県立高等学校・県立中学校入学者数について、資料に基づいて次のとおり報告した。

(山口学校教育課長)

資料4-1をご覧いただきたい。昨年度の募集定員は全日制が5,840人、定時制が280人、計6,120人だった。令和6年度の県立高校の募集定員は、全日制5,800人、定時制280人、計6,080人であり、40人減となっている。

内訳は資料4-2をご覧いただきたい。佐賀東高校の普通科で20人減、白石高

校が普通科と情報ビジネス科でそれぞれ5人減の計10人減、伊万里実業高校の森林環境科で10人減であり、全体で40人の減である。

募集定員の6,080人に対して、入学者数は5,507人であり、全日制が5,451人、定時制が56人、昨年度の入学者数に比べ46人の減となっている。充足率は、前年度90.7パーセントから90.6パーセントと前年比マイナス0.1ポイントとなっている。

なお、県立中学校は120人ずつの4校、480人の入学者である。

【主な質問等】

(飯盛(清)委員)

32校中16校が定員割れであった。公立高校の教員は定員割れに対してどのような意識を持っているのか。

(山口学校教育課長)

定員割れに対して教員全てが意識を持っている。管理職はもちろん、学校でどういった魅力を作らないといけないか教員も考えられている。学校の魅力を中学生の先生や生徒側に伝えていかないといけないため、学校説明会に力を入れている。

(飯盛(清)委員)

高志館高校の校長と話した時に、地理的に不利であり、バイク通学を認めたり、いろいろな手立てをしていると聞いた。これから先、現状はますます厳しくなると思うが、教員の健闘を祈りたい。

(荒木委員)

定時制の入学者が増えたと思うが、何か背景があるのか。

(山口学校教育課長)

今年度は確かに定時制の入学者が少ないながらも増えた。以前は働きながら定時制に通う生徒が主流であったが、最近は中学校を卒業して定時制に入学し、朝がゆっくりであることや、少人数で学ぶことができることなどから希望する生徒が増えている。

- ⑤ 山口学校教育課長は、令和7年度佐賀県立高等学校入学者選抜実施日程について、資料に基づいて次のとおり報告した。

(山口学校教育課長)

資料5-1をご覧ください。令和7年度佐賀県立高等学校入学者選抜実施日程は、特別選抜については願書受付が1月28日・29日、学力検査等を2月4日(火曜日)に実施することとする。一般選抜については学力検査等を3月4日(火曜日)・5日(水曜日)に実施することとし、追検査については、昨年度と同様に本検査のあと中4日の3月10日(月曜日)に実施する。その他昨年度と同様の日程で実施する。合格発表は3月12日(水曜日)である。

なお、追検査について、昨年度は各学校で実施していたが、今年度は県内2ヶ所での実施に向けて検討を進めている。

再募集については、3月18日（火曜日）に面接等を実施し、3月19日（水曜日）に合格者発表を行うという流れで計画をしている。

- ⑥ 山口学校教育課長は、令和7年度中高一貫教育校佐賀県立中学校入学選抜実施日程について、資料に基づいて次のとおり報告した。

（山口学校教育課長）

資料6-1をご覧ください。今年度から「中高一貫教育校」という名称が入っている。今年度から県立夜間中学の彩志学舎中学校が開校したためである。令和7年度中高一貫教育校佐賀県立中学校入学選抜にかかる適性検査等は1月18日（土曜日）に実施する。

なお、今年度から県立中学校では、インターネット出願に取り組むことになる。まず出願期間については、インターネットの登録をする期間が令和6年11月22日（金曜日）から12月2日（月曜日）の11日間となり、幅が広がっている。次に調査書等の提出が12月3日（火曜日）から12月5日（木曜日）の3日間となっている。追検査については、令和7年1月25日（土曜日）に実施する。こちらについても県内1会場での実施に向けて検討を進めている。

合格発表は1月29日（水曜日）に実施する予定である。

- ⑦ 山口学校教育課長は、令和7年度中高一貫教育校佐賀県立中学校入学選抜インターネット出願について、資料に基づいて次のとおり報告した。

（山口学校教育課長）

資料7-1をご覧ください。令和7年度中高一貫教育校佐賀県立中学校入学選抜インターネット出願については、目的としては志願者及び保護者が主体となっていく出願手続きの利便性を高めるためである。メリットの1つ目は、曜日や時間帯に関係なく出願や入学選抜手数料の納付ができるという点である。2点目はこれまで保護者負担としていた普通小為替の手数料550円、受験票等の郵送料476円、写真代が500円～1,000円程度、約1500円が削減できる。3つ目は、願書の受付業務や関係書類の郵送業務等が大幅に削減され、副次的にも県立中学校における入学選抜業務の効率化につながるという点である。4つ目は教育DXの推進に寄与をすることである。県内私学すべてがインターネット出願を導入されており、私学との競合による受検者の確保の面からも整備が必要という点である。

【主な質問等】

（飯盛（清）委員）

保護者の負担軽減が進み、大変良いと思う。小学校から提出される調査書関係はほとんど変わらないのか。

（山口学校教育課長）

調査書等は紙ベースで行う。調査書の電子化については、システムが変わった時で

ないと厳しいかと思う。

(飯盛(清)委員)

変わる見通しはあるのか。

(山口学校教育課長)

システム全体が変わるのが数年後になる予定であるため、そこに向けて今準備を進めているところである。私学の出願方法の提出書類もまだ紙の段階である。システム会社が調査書も電子化でできるようにという取組もしているため、いずれそういった形になるかと思う。

(飯盛(清)委員)

成績関係もあるため、難しそうだ。

(飯盛(裕)委員)

今回、県立中学校でインターネット出願が可能になるが、これを見たうえで今後県立高校でも導入されていくのか。

(山口学校教育課長)

そうである。

- ⑧ 江口保健体育課長は、令和5年度全国高等学校選抜大会等上位入賞者について、資料に基づいて次のとおり報告した。

(江口保健体育課長)

資料8-1をご覧ください。令和5年度全国高等学校選抜大会等での3位以上入賞者について、高校においては団体11校、個人が27人、中学校においては、団体5校、個人で11人が入賞している。特に、神埼清明高校が男子新体操で大会4連覇を達成している。鳥栖工業のレスリング部が3大会ぶり2度目の優勝をしている。多久高校がスポーツクライミングで初優勝している。4月19日(金曜日)に3位以上の上位入賞者について県民ホールで知事への報告会を行った。

- ⑦ 川崎教育総務課長は、次回定例教育委員会について、次のとおり報告した。

(川崎教育総務課長)

次回定例教育委員会は、5月23日(木曜日)14時00分から開催する予定としている。委員の出席をお願いしたい。

(5) 議事

教育長は非公開を宣言した。

【付第2号議案】

いじめ問題対策委員会からの答申を踏まえた教育委員会の対応について

このことについて、議案書により池田生徒支援室長が説明し、委員会は協議の結果、議案のとおり決定した。

(6) 事務局報告

- ① 山口学校教育課長は、令和6年度佐賀県教科用図書選定審議会委員について、資料に基づいて報告した。

(7) 閉 会 10時39分

令和6年5月定例教育委員会資料

(令和6年5月23日)

議 事 【公 開】

佐賀県教育委員会

付第 3 号議案

令和 6 年度佐賀県教育施策実施計画について

このことについて、別紙のとおり策定する。

令和6年度
佐賀県教育施策実施計画
(案)

令和6年5月
佐賀県教育委員会

はじめに

令和6年1月に策定された『佐賀県教育大綱 Vol.3』の冒頭には、「自分で自分のことを決められる子どもに育てたい」と掲げられています。そのために、子どもたちを取り巻く家庭や学校、地域が様々な生き生きとした環境をつくり、子どもの挑戦を応援していきたい。そして、高い志と佐賀への誇り、優しさを持った「骨太な子ども」を育てるため、「枠」に取り込まれることなく、トライ&エラーを重ねながら個性を伸ばしていく、そんな教育県佐賀「人づくり大県 さが」を創っていきましょう、とのメッセージが込められています。

県教育委員会でも、自分で考え、判断し、行動する、失敗を恐れずにチャレンジする、志と誇り、優しさを持った「骨太な子ども」に育ててほしいと心から願っています。

そのためには、子どもと向き合う大人の基本姿勢が大事で、肯定的に子どもと向き合う考え方を「ほめる」という言葉に込め、「ほめるから、はじめる。はじまる。」を合言葉に掲げています。子どもを認め、応援する、リスペクトする姿勢です。

私たち大人がタッグを組んで、子どもの豊かな成長を応援していきましょう。

佐賀県教育委員会

教育長 甲斐 直美

佐賀県教育委員会が掲げる基本的な施策は、次の5つです。本実施計画では、各施策に係る主な取組を示しています。

- I 志と誇りを高める教育の推進 …………… 3-5 ～ 3-6
- II 自分らしく学べる「さがん学び」の推進 …………… 3-7 ～ 3-8
- III 健やかな佐賀の子どもを育む教育の推進 …………… 3-9 ～ 3-10
- IV 誰もが安心して学べる「さがすたいるスクール」の推進 …………… 3-11 ～ 3-12
- V 教育DXの推進と学びを支える環境づくり …………… 3-13 ～ 3-14

巻末に令和6年度の主な事業を掲載しています。(3-15
～ 3-19)



重点プロジェクト

基本的な施策の各種取組に加え、特に力を入れるべき取組を『重点プロジェクト』に位置づけ、施策横断的に推進しています。令和6年度は、以下の6つの『重点プロジェクト』に取り組みます。

また、今年度は北部九州4県で全国高等学校総合体育大会を開催します。佐賀で行う大会を「SAGAインターハイ」として、「する」「観る」「支える」場面で高校生が主役となって創意工夫をこらして盛り上げていけるよう、力を入れて取り組みます。

1. 教育DXプロジェクト

DXで変える

- 2. 唯一無二の誇り高き学校づくりプロジェクト
- 3. さがん学びプロジェクト
- 4. SAGA部活プロジェクト
- 5. さがすたいるスクールプロジェクト

+



人が支える

- 6. 「未来のさが」を担う教員の人材確保

I 志と誇りを高める教育の推進

目指す未来の姿

子どもが高い志と佐賀への誇りを持って、未来の佐賀や世界で活躍する姿を思い描きながら、失敗を恐れずに挑戦し続け、主体性と自信をもって生き生きとたくましく活動している。

取組方針・内容

- ① 子どもと向き合うときの基本姿勢として「ほめるから、はじめる。はじまる。」を合言葉に、子どもの夢ややりたいことを応援することで、高みを目指して頑張る姿勢を後押しして、一人一人の子どものよさや可能性を最大限に伸ばし、志と誇り、優しさを持った「骨太な子ども」を育てていきます。

「認めて、ほめる」教育活動の推進

- ・ 学校・家庭・地域が一体となって、子どもの主体的な考えや挑戦を尊重して子どもと肯定的に向き合い、「認めて、ほめる」教育を行うことで、子どもの自己肯定感や自己有用感を高めます。

- ② 県内外からの志願者を増加させ、学校の活性化を図るとともに、社会に有為な人材の育成・輩出を目指す唯一無二の誇り高き学校づくりを推進します。

唯一無二の誇り高き学校づくりの推進

- ・ 県立高校と地域等の協働により、この学校でしか学ぶことができない教育活動を展開することで、生徒の資質・能力を育み、これからの新しい時代に有為な人材の育成・輩出を目指します。
- ・ 「高校進学説明会」の開催や「地域みらい留学」を通じた生徒の全国募集、県立高校の普通科改革の推進などの取組により、県内外からの志願者の増加を図ります。
- ・ 「地域みらい留学」を通じて全国から入学する生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう、住まいなどの生活環境を充実させます。

- ③ 子どもが自己有用感を持って主体的に学び、活動することを促します。

コミュニティ・スクールを活用した特色ある学校づくり

- ・ コミュニティ・スクールの趣旨や目的の理解を深めるとともに、コミュニティ・スクール導入による教育的な効果を普及啓発していきます。

- ④ ふるさと佐賀への誇りや愛着を持ち、佐賀のよさを語るができる子どもを育てます。

さがを誇りに思う教育の推進

- ・ 郷土学習資料と映像資料を用いた学習活動を行い（中学・高校）、佐賀に関する講演会（高校）や郷土学習の成果を発表する場（小・中・高校生）など、体験活動を活用する場を設けます。

- ⑤ 子どもが社会的・職業的自立に向け、自らの生き方について考え、希望する進路を実現できる体制を整えます。

地域産業を担う人材の育成

- ・ 県立専門学科高校等での産業教育を通して、地域産業を担う人材を育成するため、県内事業所と学校との連絡調整や関係づくりを進めます。

社会情勢の変化に対応した人材の育成

- ・ 県内工業系高校で、デジタル化に対応した教育内容であるロボット技術について、教員の指導力向上及び生徒の技術習得に重点的に取り組み、新しいニーズに対応した産業人材の育成を目指します。

⑥ SAGAインターハイ(令和6年度全国高校総体)やSAGA2024に多様な形で関わる機会を創出し、佐賀への高い誇りと深い愛着を持った子どもを育てます。

SAGAインターハイ（令和6年度全国高校総体）開催への対応

- ・ 地元の高校生が広報や来県者へのおもてなし等について、企画・準備・運営に自ら創意工夫をもって取り組めるよう、県高等学校体育連盟と共に高校生活動を支援します。

SAGA2024との連携について

- ・ 地元の高校生に大会の周知を図るための学校訪問を知事部局の関係課と合同で実施するなど、県内の子どもが主体的にSAGA2024に参画できるよう、知事部局や学校との連携を図ります。

⑦ 様々な文化を理解し、歴史を見つめ直す機会となった「2019さが総文」を契機に、新しい文化を創造できるような、創造力を持った子どもを育てます。

文化芸術活動の活性化

- ・ 生徒の部活動の選択肢や全国レベルの文化芸術に触れる機会を確保します。

Ⅱ 自分らしく学べる「さがん学び」の推進

目指す未来の姿

子ども一人一人が個性を発揮し、多様な人々と協働しながら、創造力や構想力を持って主体的に学んでいる。

取組方針・内容

① 自分に自信を持ち、夢や目標を実現しようとする子どもを育てます。

「個に応じた最適な学び」と「多様な人々との協働学習」の充実

- 子ども一人一人に応じた学習活動・課題に取り組む機会を設定し、子ども自身の学習が最適となるよう授業の改善・充実を図ります。また、多様な人々と連携した探究的な学習や体験活動を行います。

少人数学級・チームティーチングの実施

- 少人数学級、チームティーチングの実施によりきめ細かな指導で児童一人一人の成長をサポートします。

小学校教科担任制の推進

- 小学校高学年において義務教育9年間を見据えた専門性の高い教科指導を行います。また、小学校外国語活動・外国語については、指導研究を行う学校の研究成果の普及を図ります。

ICT活用教育の推進

- 校種別授業公開、教科別研修等により、教職員のICT活用指導力の向上を図ることで、1人1台端末を活用した授業改善やデジタル技術を活用した教育活動を充実させます。また、各県立学校ごとにICT活用に関する取組目標を設定し、計画と実践、振り返りを経て、取組の改善・充実に努めます。

② 子どもの学力向上を図ります。

県調査、全国調査の分析と結果の活用促進

- 県調査及び全国調査を実施し、結果分析を行うことで、一年間の学力向上検証改善サイクルに取り組みます。

学力向上対策の充実

- 4つの取組（全職員による共通理解と共通実践、学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践、授業改善に向けた校内研修等の充実、家庭学習の充実に向けた指導の徹底）の強化に向けた支援を行います。

③ 授業改善に取り組み、教員の指導力向上を図ります。

「自分で考える学び」・「対話を通じた学び」・「思考を深める学び」の実現に向けた指導方法の改善・充実

- 授業改善やSDGsの理念を踏まえた研究を行う学校を指定し、研究成果を共有します。

授業改善の推進

- 研究校を指定し、子どもの基礎・基本の定着や思考力・判断力・表現力を高める授業改善、単元で身に付ける力を明確にした授業づくり等の実践研究を行い、その研究成果を県内学校へ普及します。

教員の指導力向上

- 学習指導要領の趣旨と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究・研修・学校支援の充実を図ります。

④ 家庭学習の時間確保、質の向上が課題であるため、子どもの学ぶ習慣を育てます。

学校と家庭・地域との連携

- ・ 家庭学習の手引きの活用により、家庭学習の充実、家庭・地域の教育力向上に取り組みます。

⑤ 学びの連続性を意識した効果的な指導方法を構築します。

校種間連携の推進による効果的指導法の構築

- ・ 幼保・小・中・高の校種間連携の取組を支援し、子どもの発達段階の違いを踏まえた学習指導や生活指導などの在り方の相互理解を促進します。小・中学校においては、義務教育9年間を見通した体系的で連続性のある指導が行われるよう、市町教育委員会及び各学校の取組を支援し、指導方法の工夫・改善に取り組みます。

佐賀大学及び西九州大学との連携による取組

- ・ 佐賀大学及び西九州大学と連携し、各プロジェクトによる具体的な取組を充実させます。

⑥ 中高生の海外での挑戦を応援します。また、多様な文化・価値観を理解し、主体的に行動できる子どもを育てるとともに、外国につながる子どもも安心して学べる環境を整えます。

海外からの留学生や学校交流の受入促進

- ・ 海外からの留学生の受入調整や海外の学校と県内の学校とのマッチングなど、海外との交流に関するコーディネートを行い、交流が円滑に行われるよう支援します。また、ホストファミリーのバンク登録者によるホームステイ受入れを推進します。

海外留学、海外研修に対する支援

- ・ 海外への興味・関心を喚起する事業や海外留学・海外研修に対する経済的支援を実施し、中・高校生の海外留学や海外研修を推進します。

体験的外国語活動の推進

- ・ 各学校への外国人講師の派遣や体験的外国語活動の推進などにより、授業で学んだ外国語（英語）を使いこなす機会を増やし、コミュニケーション力の向上を図ります。

英語教育の改善充実

- ・ 外部有識者検討会を立ち上げ、教員のさらなる資質向上及び子どもの外部検定試験の受験意欲向上に向けた取組の検証を行い、英語教育改善及び充実を図ります。

外国につながる子どもの実情に応じた指導方法の工夫改善及び支援の充実

- ・ 外国につながる子どもたちが円滑に学校生活を送り、学習に取り組めるように、日本語指導の工夫改善や支援体制の整備を進めていきます。

Ⅲ 健やかな佐賀の子どもを育む教育の推進

目指す未来の姿

子どもが、生涯にわたってたくましく生きるために、自らの健康や体力に関心を持ち、自ら進んで学び、実践する能力を身に付けている。また、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな感受性や人を想う優しさを身に付けている。

取組方針・内容

① 子どもの健康な体づくりを応援します。

体力向上へ向けた学校の取組の充実

- ・ 各学校が体力向上のための目標を設定し、全国調査等の結果分析により学校の実態を把握することで、課題に応じた体力向上に取り組むことができるよう、実践例の共有等の支援を行います。

学校体育の充実

- ・ 小中学校の体育授業に授業協力者を派遣し、児童・生徒が意欲的に取り組めるよう指導内容の充実や教員の資質向上を図ります。

運動部活動の推進

- ・ 部活サポーター（部活動指導員）及び外部指導者の派遣、学校体育団体が行う強化練習会・強化合宿やアドバイザーコーチ招へい等の取組を支援することで、運動部活動の推進を図ります。

② 自ら率先して望ましい食生活を形成できる子どもを育てます。

安全安心な学校給食の実施

- ・ 給食時間を安全に、かつ、楽しく過ごせるように異物混入、食物アレルギー等に対するリスク管理や緊急対応が適切に行えるよう学校の取組を支援します。

食育の充実

- ・ 各学校において、食育を推進するための運営組織が整備され、「食に関する指導の全体計画」に基づき、食育推進の意義や役割を踏まえた食育指導が実践されるよう、食育の充実に向けた取組を推進します。

③ 自分の健康について、自分で考え行動できる子どもを育てます。

学校保健の推進

- ・ 子どもの基本的な生活習慣を培うとともに、健康管理などにより学校保健活動を推進します。また、体系的な研修を通して、養護教諭としての専門的知識の習得や実践的指導力の向上を図ります。

性に関する指導の推進

- ・ 性に関する指導を学校保健計画に位置付け、学校教育全体を通し、子どもの心と体のバランスに配慮した性に関する指導の取組を推進します。

がん教育の推進

- ・ 学校におけるがん教育を推進することで、子どもが、がんについて正しく理解し、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにします。

④ 子どものニーズに合った部活動に取り組めるように、「SAGA部活」を推進します。

持続可能な部活動に向けた改革の推進

- ・ 県教育委員会が主体になり、県の関係部局、県内競技団体等と連携し、「チームSAGA部活」として指導者確保等の諸課題に取り組みます。

運動部活動の活性化

- ・ これまでの顧問の指導に加え、地域人材を活用することにより適切な指導を受けることができる環境整備を行い、子どもの「競技力をあげたい」「スポーツを楽しみたい」などのニーズに合った活動ができるようにします。

文化芸術活動の活性化

- ・ 志をもって部活動に取り組む生徒が増え、県総文祭を核とした佐賀の文化芸術活動の活性化につなげるため、生徒が様々な部活動に挑戦できる機会や全国レベルの文化芸術に触れる機会を確保します。

⑤ 社会の中で、様々な人々と互いを尊重しながら生きることや、他者と協働しながらよりよい社会の実現を図ることが求められていることから、豊かな感性や想像力、表現力を持った子どもを育てます。

道徳教育の推進

- ・ 道徳教育に係る研究校及び加配校における成果の周知等を通して、各学校における道徳教育推進教師を中心とした指導体制の強化と全体計画に基づく道徳教育の確実な実施を推進し、各学校での教育活動全体を通じた道徳教育の一層の充実を図ります。

読書活動の充実

- ・ 朝読書や資料を活用した学習などに利用できる図書の実質や、学校図書館を拠点とした読書活動の実質に向けた取組を推進します。

体験活動の推進

- ・ 発達段階に応じた地域間交流や世代間交流、ボランティア活動、自然体験活動、生活体験活動、集団宿泊活動、職場体験活動などの取組を推進します。

人権・同和教育の推進

- ・ 教育活動全体を通して、人権問題に関する正しい知識や確かな人権感覚を身に付けさせ、自他の人権を守ろうとする意識、意欲や態度の向上及び行動力を育成します。

主権者教育の推進

- ・ 小・中・高等学校において主権者教育を推進し、国家・社会の形成者として求められる子どもの資質・能力を育みます。また、高等学校においては、国の副教材の活用や選挙管理委員会等と連携し、指導の一層の充実を図ります。

IV 誰もが安心して学べる「さがすたいるスクール」の推進

目指す未来の姿

学びを必要とする誰もが、それぞれの個性や多様な価値観が尊重される場で、安心して学ぶことができている。また、子どもが自分の学校の在り方について議論できる場など、子どもが自由に選択できる環境が整っており、多様な経験を重ねている。

取組方針・内容

① 特別な支援が必要な子ども一人一人のニーズに応じた必要な支援を行います。

特別支援学校における特別支援教育の充実

- 特別な支援が必要な子どもの増加による教室不足に対応するため、「鳥栖特別支援学校」の整備など教育環境の改善を図ります。また、様々な通学支援により、自力での通学が困難な子どもの通学を支援します。

幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実

- 特別支援教育エリアリーダーの配置や特別支援学校のセンター的機能の充実などにより、幼稚園、小・中学校、高等学校における教員の専門性の向上や校内支援体制の整備を支援します。

インクルーシブ教育システムに対応した特別支援教育の充実

- 市町教育委員会に対し、就学事務に係る情報提供などによりインクルーシブ教育システム構築を支援します。また、インクルーシブ教育システム構築に向けた研究及びユニバーサルデザインの視点を取り入れた研究の成果を生かした学校への支援を行います。

学校における医療的ケア実施体制の強化

- 県教育委員会事務局に「医療的ケアアドバイザー」を配置し、特別支援学校における医療的ケア実施体制の構築・改善に向けた助言や、医療的ケア看護職員、教員、保護者、医師等の連携促進及び看護職員を対象とした研修を実施することで、医療的ケア実施体制の強化を図ります。

② 県民の『学びたい』というニーズに応えます。

県立夜間中学 彩志学舎中学校の開校

- 誰もが義務教育の学び直しの機会が得られるよう、令和6年4月に開校した佐賀県立夜間中学「彩志学舎中学校」の教育環境の充実を図るとともに、広く情報発信を行っていきます。

定時制高校・通信制高校の充実へ向けた検討

- 県民の多様なニーズに対応し、一人一人が目標に向かって前向きに挑戦することができるよう、通信制高校や定時制高校の在り方の検討を進めていきます。

③ 子どもの主体性を尊重し、子どもが自分らしく学ぶことができる環境づくりに取り組みます。

校則の見直し

- 子どもが校則（学校のきまりなど）について主体的に議論できる場を設け、子ども、保護者、教職員の合意形成を図りながら、校則の不断の見直しを進めます

制服を自由に選択できる環境づくり

- ・ 県内全ての子どもが自分らしく安心して学校生活を送ることができるよう、自由に選択できる制服の導入を促進し、一人一人の個性や多様性を尊重する意識の醸成を図ります。

- ④ 不登校については「魅力ある学校づくりと初期対応」「一人一人の状況に応じた支援」を、いじめについては「未然防止」「早期発見・早期対応」「再発防止」を徹底します。

不登校対策、教育相談体制の充実

- ・ 県内すべての公立学校の子どもが、スクールカウンセラーによるカウンセリングを受けることができる体制を整備するとともに、不登校の状況に応じて小・中学校での別室対応への支援を行います。また、県内すべての公立学校にスクールソーシャルワーカーを派遣し、学校だけでは解決困難な課題について、家庭や関係機関等と連携・協力する取組を支援します。

いじめ問題対策の充実

- ・ 専任の相談員による電話相談窓口を設置する等、いじめ問題に悩む子どもや保護者が相談しやすい環境を整備しいじめ防止のための研修会の開催等により教員の意識・対応力向上に努めます。

生徒指導体制の充実

- ・ アンケート調査や面談などによる子ども理解に基づく指導・支援や、生徒指導上の諸課題の早期発見・早期対応はもとより、暴力行為などの発生時に組織的に対応できる体制の確立・強化を図る学校の取組を支援します。

- ⑤ 生涯にわたり自らの安全を主体的に確保することができるような子どもを育てます。また、子どもが安心して学べるよう、安心安全な学びの場を提供します。

安全教育の推進

- ・ 避難訓練を含む様々な安全教育を学校安全計画に位置付け、学校教育活動全体を通じ、緊急時を想定した危機回避能力を身に付ける学校安全に関する教育を推進します。また、学校安全計画の検証・改善に努めます。

学校施設の整備推進

- ・ 学校施設の特性に応じた長期保全計画（個別施設計画）に基づき計画的に施設の改築及び保全工事を実施することで、県立学校施設の老朽化対策を行います。また、市町立学校でも、老朽化対策などによる施設環境の改善が計画的に実施されるよう、国庫補助事業の活用にあたっては文書通知による情報提供だけでなく、ヒアリングや現地確認の機会も捉えて施設の現状を踏まえた助言をするなどの働きかけを行います。

V 教育DXの推進と学びを支える環境づくり

目指す未来の姿

教育DXによる大胆なデジタル化が浸透し、優秀な教職員が確保・育成されるとともに、安全・安心で質の高い学習環境が確保されるなど、子どもの学びを支える環境が整備されている。このことを通じて「誰もが いつでも どこでも 誰とでも 自分らしく学ぶことができる 子ども主体の学び」が実現し、創造力や構想力に富む、佐賀の未来を担う多様な人材が育っている。

取組方針・内容

① Society5.0 時代の到来を見据え、多様で幅広い視点で課題解決に向かう力を持った子どもを育てます。

ICT活用教育の推進

- ・ 校種別授業公開、教科別研修等により、教職員のICT活用指導力の向上を図ることで、1人1台端末を活用した授業改善やデジタル技術を活用した教育活動を充実させます。

DI（デジタルイノベーション）人材の育成

- ・ 産学官連携によりDI SCHOOL「SEIRENKATA」を創設し、高校生が最先端デジタル技術や佐賀の地元学を学ぶことでDI人材育成を進め、将来佐賀で活躍する仕組みを構築します。

教育DXの推進

- ・ 1人1台端末や電子黒板などの機器類のICT活用教育の環境整備を行い、デジタル教材を活用することで授業や家庭学習における自分で考え伸びようとする姿勢を応援します。また、県立学校における学校内設置サーバーのクラウド化を推進し、佐賀県全体を学びのフィールドとして、どこでも学べる環境を実現します。

市町におけるGIGAスクール構想の支援

- ・ 全国に先駆けてICT活用教育に取り組んできた県の知見を活かして、市町におけるGIGAスクール構想を積極的に支援し、ICT活用教育総合サイト「Eコネクト」や佐賀県ICT活用教育推進協議会にて端末活用好事例等の情報交換や端末更新を推進することで、全県規模でICT活用教育を推進します。

情報セキュリティ対策の強化

- ・ 学校教育ネットワークに対する不正アクセス事案を受け設置した、佐賀県学校教育ネットワークセキュリティ対策検討委員会の提言を踏まえ、実施計画に基づき情報セキュリティ対策に取り組みます。

② 働き方改革を推進することで、創造力や構想力を持つ多様な人材を育てる環境を整えていきます。

教職員の多忙化の軽減

- ・ 業務のスリム化の取り組みを継続し、「学校現場の業務改善計画」を実践します。また、働き方改革に係る優良事例の共有を行い、教員の多忙化の軽減に向けて取り組むよう働きかけます。

教職員の心身の健康管理の充実

- ・ 心身の健康に関する各種研修や各種講習等を通して、自らの健康への意識啓発と、健康診断・ストレスチェック結果を踏まえた生活習慣の改善やストレスへの対処などのセルフケア能力の向上を促します。

③ 学校における人的教育環境を充実させます。

教員採用試験の選考方法・内容等の改善・充実

- ・ 教員採用試験の改善・充実により、教員に必要な資質や能力を持つ多様な人材を幅広く求め、教育現場の課題に適切に対応できる教員の確保を図ります。

教職の魅力の発信

- ・ 教員採用試験の説明会や教員を目指す高校生向けのプログラムなどの場で、教職の魅力を発信します。また、「さが」の魅力、「先生」の魅力を発信するWebサイトを効果的に運用し、受験者確保に努めます。

教員の養成・育成

- ・ 県内大学と連携し、養成課程の評価・改善に取り組み、教育現場の現実的な課題を踏まえた養成課程が実現されるよう努めます。その他、県の教員育成指標及び教員研修計画に基づく教職員のキャリアステージに応じた研修、民間企業等への派遣研修及び体験研修等を通して、資質向上を図ります。また、県内の教育現場において、様々な教育活動に大学生が携わる「学校支援活動」等を推進します。

教職員の服務規律の徹底

- ・ 管理職からの指導や既存の研修を通じて職責の重要性を自覚させることで、服務規律の保持に努めます。また、不祥事等の発生防止に向け、教職員一人一人の意識改革へ向けた働きかけや各種研修の内容の充実を図ります。万一の発生時には、厳格に対応します。

④ 学校の活性化や人材の育成及び意欲や専門性に富んだ人材の活用を図ります。

教職員人事評価制度の活用

- ・ 「教職員人事評価制度」においては、教職員に求められる資質・能力、学習指導、生徒指導、学校経営などの力を整理し、業績と能力の両面からの評価及び評価者からのフィードバックを通して、職務遂行能力の向上を促します。また、適正な評価が行われるように、評価者を対象とした研修を実施します。指導不適切教員等に対しては、研修の一層の充実を図るとともに、人事上の措置についても適切に対処します。

意欲や専門性に富んだ人材の活用

- ・ 各学校の特色ある教育活動の実現・推進を人事配置面から支援し、個々の教員の熱意や創意工夫を教育課題の解決に役立てます。また、意欲や創造性を持った教員や、一定の専門性を備えた教員などの情報を集約し、これらの教員を核とした地域や学校での課題解決力の向上を図ります。

⑤ 子どもが安心して学べるよう、安心安全な学びの場を提供します。

学校施設の整備推進

- ・ 学校施設の特性に応じた長期保全計画（個別施設計画）に基づき計画的に施設の改築及び保全工事を実施することで、県立学校施設の老朽化対策を行います。また、市町立学校でも、老朽化対策などによる施設環境の改善が計画的に実施されるよう、国庫補助事業の活用に当たっては文書通知による情報提供だけでなく、ヒアリングや現地確認の機会も捉えて施設の現状を踏まえた助言をするなどの働きかけを行います。

学校の危機管理体制の確立・強化

- ・ 「教育現場における安全管理の手引き」や危機管理マニュアルを絶えず検証し、見直しを行います。

⑥ 子どもの「学校で学びたい」という姿勢を応援します。

修学支援の充実

- ・ 県立高校に在学する生徒に対し就学支援金を支給、高校生等がいる低所得世帯の保護者等に対し奨学給付金を支給することで、県立高校における授業料等の経済的負担の軽減を図ります。また、経済的理由により修学が困難な高校生に対し、要件を満たす希望者全員に育英資金を貸与します。

【巻末資料】各施策の主な事業（令和6年度）

施策名・主な事業名	事業内容	R6年度予算額 (千円)	担当課・室名
I 志と誇りを高める教育の推進			
1 SAGA唯一無二の学校魅力 実践事業費	唯一無二の誇り高き学校として県立高校の魅力高め、県内外からの志願者を増加させるとともに、地域社会に貢献できる有為な人材の輩出を目指す。 ・SAGAコラボレーション・スクール指定校（9校） 地域、企業、大学等とコラボレートした学校運営組織による学校の魅力化 ・SAGAスマート・ラーニング指定校（8校） 地域、企業、大学等と連携した新しい時代の教育内容実践による学校の魅力化 ・学校魅力化コーディネーターの配置（5校） コーディネーターの配置により学校と地域の連携を促進 等	43,382	教育振興課
2 SAGAハイスクールプロ モーション事業費	県内高校の特色や魅力について積極的かつ効果的に情報発信することにより、県内外からの進学を促進し、唯一無二の誇り高き学校づくりを推進する。 ・高校進学説明会、県外向けRRの充実 ・「地域みらい留学」への参画（有田工業高校、唐津青翔高校） ・有田町が行う全国募集で入学した生徒への生活支援に対する補助 ・ハウスマスターの配置 等	22,546	教育振興課
3 SAGAハイスクールプロ モーション事業費 離島の生徒の高校進学 のための生活環境整備事業 費	離島の生徒を対象とした住まいなどの生活環境を整備・充実させることで、県内高校への進学を促進する。 ・ハウスマスターの配置 ・住まいの管理	2,021	教育振興課
4 県立高校普通科改革推進 事業費	県立高校普通科において、学科等の見直しを推進することにより、高校の特色化や魅力化の促進を図るとともに、社会のニーズや生徒の興味・関心等を踏まえた教育の実現を図る。 ・県立高校普通科の学科、コースやカリキュラムの見直し ・教職員研修の実施 ・学科、カリキュラム等の見直しに係る情報発信	7,864	教育振興課
5 唐津青翔高校TSUNAGARU プロジェクト事業費	多様な生徒が唐津青翔高校に入学し、「未来」・「世界」・「地域」とつながりながら学び合うことにより、骨太でたくましい人材を育成するとともに、県外からの入学者増により唐津青翔高校の活性化を図る。 ・特別教室棟の改修工事等に係る設計 ・交流拠点整備に係る事前調査 等	11,480	教育総務課 教育振興課
6 クロストレーニングモデル 事業費	令和6年度に「スポーツ科」が新設される佐賀東高等学校において、クロストレーニングを導入することにより、競技力の向上を図るとともに、スポーツ科でトレーニング結果の効果検証を行うことで、生徒が様々な視点を持ち、スポーツへの学びを深めていくことを目指す。	3,940	保健体育課
7 県立高校6次化実践プロ グラム事業費	遠隔・オンライン教育を活用した新しい教育方法により、高校や学科の専門性を生かした文理融合型の教科等横断的な学びを実践するカリキュラム開発や、大学、研究機関等の関係機関との連携体制の構築を図り、新しい時代の高等学校改革の姿を創造する。 ・デジタル技術（遠隔・オンライン・メタバース）を活用した新しい教育方法の導入 ・学校の特色や地域性を生かした創造力を育む文理融合型の学びの実践 ・専門的知見、先端技術を有する人材、地域を支える人材の積極的な活用	3,600	教育DX推進グループ
8 キャリア教育支援事業費	生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通じてキャリア発達を促す。 ・各学校におけるキャリア教育に係る活動 ・学年別、志望校別合同学習会、学科ごとの学習会 ・科学の甲子園などを通じた科学的思考力の育成 など	16,494	学校教育課
9 大学受験力及び学力向上 支援事業費	令和4年度から年次進行で段階的に適用されている新学習指導要領に対応し、各学校が実施する教員の指導力の向上や学校の組織的指導体制の充実を図るための取組等を支援する。 ・教員研修支援 ・スーパーティーチャー等による若手教員の指導力向上研修 ・教育課程研究支援	3,441	学校教育課
10 未来SAGA産業人材育成プロ ジェクト推進費	県立専門高校での産業教育を通して、地域産業を担う人材を育成する。 ・県内就職を支援する支援員の県立専門学科高校等への配置（23人） ・進路セミナーの開催、県内事業所の見学 ・長期インターンシップの実施 等	87,828	学校教育課
11 SAGAマイスターハイス クールプロジェクト事業 費	専門系高校で、教員の指導力向上及び生徒の技術習得に重点的に取り組み、新しいニーズに対応した産業人材の育成を図る。 ・全国産業教育フェア開催に向けた競技力の向上事業 ・全国産業教育フェア（ロボット競技全国大会等）の視察 ・専門員会の開催	12,256	学校教育課

【巻末資料】各施策の主な事業（令和6年度）

施策名・主な事業名	事業内容	R6年度予算額 (千円)	担当課・室名
12 さがを誇りに思う教育推進事業費	佐賀県のよさを知り、佐賀県の歴史・文化・自然などに対し誇りと自信を持つ生徒を育む。 ・郷土学習資料『佐賀語り』『佐賀巡り』の配布 ・ふるさと学習コンクールの実施 ・県立高校における講演会の開催	4,381	学校教育課
13 さが絵文の「志」継承事業費	「2019さが絵文」を契機に活性化した文化部活動のレベルアップを図り、佐賀の文化芸術活動の発展を目指す。 ・文化部活動活性化のための必要な経費の補助 ・全国高等学校総合文化祭等への出場経費の補助	6,543	学校教育課
14 2024年度全国高校総体北部九州大会開催事業費	令和6年度（2024年度）に北部九州4県等で開催予定の全国高等学校総合体育大会（北部九州総体）を通じて、佐賀への高い誇りと愛着を持った人材の育成を図る。 ・全国高校総体の開催準備及び運営 ・高校生活動の推進 等	421,642	全国高校総体2024推進チーム
II 自分らしく学べる「さがん学び」の推進			
15 全国学力・学習状況調査を活用した学力向上対策事業費	全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査を活用した検証改善サイクルを徹底し、調査結果の検証等に基づいた学力向上対策の改善・充実を図る。 ・小中連携による学力向上推進地域指定事業 ・検証改善サイクル確立による学力向上対策の推進 ・調査結果の分析 等	4,678	学校教育課
16 学びのSAGAアクティブ推進事業費	佐賀県小・中学校学習状況調査のあり方を見直し、教員による学力向上の取組の充実や児童生徒が自分らしく主体的に学べる環境を提供することで学習上の課題への対応を図る。 調査問題に係る業務（作成・採点・入力・分析等）の業者委託により ・児童生徒の学習状況に係る詳細なデータの提供 ・個々に応じたフォロープリントの提供	18,011	学校教育課
17 家庭・地域の教育力向上推進事業費	子供たちの学習習慣確立に向け、学校現場と家庭・地域が連携した取組の一層の充実を図り、県全体で学力向上に向けた機運の醸成を図る。 ・学力向上フォーラムの開催、家庭学習リーフレットの更新、PTA関連の研修会への講師派遣 等	1,278	学校教育課
18 放課後等補充学習支援事業費	授業による指導だけでは学習内容の定着が図れていない生徒のため、放課後等に補充学習を実施する市町への支援を行う。 ・外部人材を活用した放課後や長期休業中の補充学習の実施に対する支援（市町立中学校63校を予定）	13,230	学校教育課
19 グローバル社会で生きぬくSAGA人材づくり事業費	グローバル化が進む中、国際的な視野を持ち、外国語によるコミュニケーション能力や多様な人々との共生を可能とする資質・能力を備えたグローバル人材を育成する。 ・留学生受入促進 ・海外留学や海外研修への支援 ・体験的外国語活動の推進 等	61,456	教育振興課
20 帰国・外国人児童生徒教育の推進支援事業費	帰国・外国人児童生徒等が日本語で学校生活を営み、学習に取り組めるよう、当該児童生徒等の実情に応じた指導方法の工夫改善及び支援体制について、研究を行い、成果の普及を図る。 ・指導・支援方法の研究及び市町への補助 ・連絡協議会の開催 ・研修会の開催 等	8,735	教育振興課
21 小学校第6学年における少人数学級の実施	令和3年3月の義務標準法の改正を踏まえ、国は、令和7年度までに小学校35人学級を計画的に整備する。令和6年度は、第5学年の学級編制の標準を国が35人に引き下げるため、小学6年生における少人数学級を国に先駆けて実施し、よりきめ細かな指導のための環境整備を行う。	177,093	教職員課
III 健やかな佐賀のこどもを育む教育の推進			
22 SAGA部活推進事業費	学校と地域の連携を深めた新たな部活動のスタイル「SAGA部活」の体制を整備することにより、生徒及び指導者がより活躍できる場を確保し、スポーツ及び文化芸術の振興を図る。 ・部活サポーター（部活動指導員）の派遣 ・SAGA部活指導者発掘・支援 ・SAGA部活スペシャルサポーターの派遣 ・地域スポーツクラブ活動体制整備 等	25,406	保健体育課

【巻末資料】各施策の主な事業（令和6年度）

施策名・主な事業名	事業内容	R6年度予算額 (千円)	担当課・室名
23 運動部活動外部指導者派遣事業費	専門的な知識・技術を有する運動部活動外部指導者を県内の高等学校に派遣し、運動部活動の充実を図る。	1,564	保健体育課
24 部活動指導員活用事業費	公立中学校に部活動指導員を配置し、効果的に活用することにより、部活動に従事する教員の負担軽減を図るとともに、生徒のニーズに応じた技術サポートを行う。	23,583	保健体育課
25 子どもの体力向上推進事業費	子どもの体力向上を図るため、各種体力調査の結果をもとに各学校において改善に役立つ具体的方策を提案し支援する。 ・スポーツチャレンジの推進 ・体力向上優良校等の表彰 等	1,420	保健体育課
26 学校体育スポーツ推進事業費	小・中学校の体育学習に対し、専門的な技術を有する外部指導者等の積極的な活用を支援する。 ・学校体育指導者講習会の開催 ・研究実践校等における研究 など	1,680	保健体育課
27 人権・同和教育活動費補助	市町が行う人権・同和教育の早期解決を目指した人権・同和教育の諸活動及び人権・同和教育集会所の運営費について補助を行い、人権・同和教育解決に向けた教育の推進を図る。	27,829	人権・同和教育室
IV 誰もが安心して学べる「さがすたいるスクール」の推進			
28 特別支援学校整備事業費（鳥栖特別支援学校）（継続費）	障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな教育、地域のセンター的機能など鳥栖・基山地区の特別支援教育の更なる充実を図るため、九千部学園を有効活用し、小中高等部生を受け入れる新設校を整備する。鳥栖田代分校の全部及び中原特別支援学校本校の一部を集約する。（障害種別：知的障害 就学区域：鳥栖市、基山町） 【R6年度】 ・既存施設改修、小中学部棟増築 等	748,521	教育総務課 特別支援教育室
29 特別支援学校整備事業費（金立特別支援学校、大和特別支援学校）	児童生徒数が増加している特別支援学校において、教育環境の改善を図るため、敷地の安全対策及び教室不足改善のための施設整備を行う。 【R6年度】 ・金立特別支援学校：既存施設改修、旧寄宿舎棟解体 等 ・大和特別支援学校：仮校舎設置 等	247,413	教育総務課 特別支援教育室
30 県立特別支援学校におけるスクールバス運行事業費	自力での通学が困難な県立特別支援学校の児童生徒等の通学を支援するとともに、保護者等の通学に係る負担軽減を図るため、スクールバスを運行する。 ・スクールバス運行に係る委託経費（6コース）	88,950	特別支援教育室
31 特別支援教育推進事業費	障害のある児童生徒等の自立と社会参加を一層推進していくために、特別支援学校、幼稚園、小・中・学校、高等学校における特別支援教育の推進を図る。 ・職業自立推進（企業等における就業体験の実施、就労支援コーディネーターの配置） ・学校生活支援（巡回相談員の派遣、専門家チームの派遣） 等	22,140	特別支援教育室
32 特別支援学校における医療的ケア支援事業費	教育委員会に医療的ケアアドバイザーを配置することで、特別支援学校内における医療的ケアの支援体制を強化し、児童生徒の学習機会の安定を図る。	10,428	特別支援教育室
33 不登校対策総合推進事業費	不登校児童生徒の社会的自立や学校復帰に向けて、個々の状況に応じた段階的支援の充実を図る。 ・別室に常駐する学校生活支援員を配置する市町への補助 ・スクールソーシャルワーカーの派遣 ・不登校児童生徒へのカウンセリング等のアウトリーチ型支援を行う支援員の派遣 等	143,397	生徒支援室

【巻末資料】各施策の主な事業（令和6年度）

施策名・主な事業名	事業内容	R6年度予算額 (千円)	担当課・室名
34 スクールカウンセラー等配置事業費	学校におけるカウンセリング機能の充実を図るため、スクールカウンセラーを配置する。 また、県立高校に在籍する障害のある生徒の学校生活に必要な活動を支援するため、特別支援教育支援員等を配置する。	129,024	生徒支援室
35 いじめ対策等外部人材活用事業費	いじめ問題等、生徒指導上の諸課題の早期解決に向けた取組強化のため、専門的見地から教職員への助言や児童生徒への面談を行うなど、学校内外で生徒指導の支援ができる人材「生徒指導支援員」を配置する。	17,844	生徒支援室
36 スクールロイヤー活用事業費	専門知識を有する弁護士（スクールロイヤー）から指導・助言を受けることで、教職員の負担軽減と安定した学校運営を図り、ひいては生徒の最善の利益を守る。 ・学校教育に係る案件に対する法的な助言 ・生徒向けの出前講座 ・いじめ防止等に係る教職員向け研修	811	生徒支援室
V 教育DXの推進と学びを支える環境づくり			
37 SAGAハイスクールDI人材育成事業費	地元企業・大学・高等専門学校が連携し、高校生に最先端のデジタル技術を学べる場を提供することにより、デジタル技術を活用した新たな価値を創造する人材の育成を図る。 ・「SAGA DI Lab」設置 ・DI人材プログラムの開発	50,000	教育DX推進グループ
38 次期教育情報システム整備事業費	令和8年度末で利用期限となる教育情報システムの更新を行い、子どもの主体的な学びと教職員の働き方改革を実現する教育環境を整備する。 ・教育情報システム等の更新に係る基本設計	51,319	教育DX推進グループ
39 SAGA教育DXスタートアップ事業費	教育DXの実現に向けた試行・検証事業として、指定校を定めて、学習活動と校務事務のデジタル化を進める。 ・学習データのクラウド化 ・デジタル採点活用システムの導入 ・テレワークシステムの検証 ・実証事業の展開	18,257	教育DX推進グループ
40 オンライン教育環境整備事業費	オンラインによる授業や面談など、教育活動をオンラインで実施するための環境を整備する。 ・授業等をオンラインで配信するための支援員の配置 ・オンライン配信を行うための著作権処理補償金 ・自宅に通信環境がない児童生徒及び職員にUSB接続型携帯端末を貸与	17,073	教育DX推進グループ
41 教育活動オンライン交流・情報発信事業費	オンラインを活用した学校行事等の映像配信、県外・海外等との交流を通じた教育活動を継続し、県立学校の情報発信とグローバル化に対応した教育活動の充実を図る。 ・映像配信用アカウントの保守・運用（YouTube） ・県外・海外との交流及びオンライン研修用アカウントの保守・運用（Zoomアカウント）	2,620	教育DX推進グループ
42 小・中・高を通じた英語教育強化事業費	小・中・高を通じて使用可能な英語学習デジタル教材で、児童生徒の英語力の測定及び個別最適な学びを可能とする。さらに児童・生徒の英語能力を向上させるための研究を行う。 ・デジタル教材サイトの運用保守 ・デジタル教材改修費 ・指導方法研究	13,716	教育DX推進グループ
43 GIGAスクール構想支援事業費	県内20市町におけるGIGAスクール構想の本格実施を受け、各市町立学校におけるICT活用教育の推進を支援する。 ・指定校での研究（研究指定校5校） ・モデル授業公開、研修会の実施 ・訪問支援	1,470	教育DX推進グループ
44 Eコネクト事業費	GIGAスクール構想でICT活用が進められている今、ICT活用教育のサイト「プロジェクトEコネクト」を開設し、教員のニーズに応じたきめ細やかな情報を提供したり、情報交換の場を設け、教員の資質向上を図る。 ・ICT活用教育総合サイト「Eコネクト」の運用保守 ・動画作成	4,402	教育DX推進グループ

【巻末資料】各施策の主な事業（令和6年度）

施策名・主な事業名	事業内容	R6年度予算額 (千円)	担当課・室名
45	学習用PC整備関連事業費 県立高校の生徒用学習用PCの整備、必要なライセンス等の調達、ヘルプデスク業務委託を通じた学校におけるICT活用教育支援等を実施する。 ・県立高校学習用PCリース及び修繕、マイクロソフトライセンスに係る経費 ・特別支援学校用PCリース ・コールセンター及び現地員による障害受付等への対応のためのヘルプデスク業務委託経費	341,302	教育DX推進グループ
46	ICT活用教育関連整備事業費 教育の情報化（ICT活用教育）の推進により、児童生徒一人ひとりに応じた指導の充実と教育の質の向上を図る。 ・県立学校（中学校、高等学校、特別支援学校）の電子黒板（液晶型）リース ・県立中学校、県立高校指導者用、予備機等のPCリース、及び機器修繕費等 ・特別支援学校学習用PC用管理ソフトライセンス費 ・県立学校における情報機器廃棄委託費 等	130,406	教育DX推進グループ
47	公立学校情報機器整備事業費 国のGIGAスクール構想の第2期を見据え、各市町で整備された1人1台端末の更新に必要な機器整備及び市町への補助を行い、より一層の活用を促進し、個別最適な学びを実現する取組の加速を図る。 ・市町の1人1台端末更新に係る費用に対する補助 ・入出力支援装置の整備	41,173	教育DX推進グループ
48	教育情報システム運用事業費 教育情報システムの運用を行い、情報セキュリティの強化、学校現場の利便性の向上、教職員の負担軽減を図る。 ・システム運用保守 等	396,686	教育DX推進グループ
49	高等学校DX加速化推進事業費 高校段階において、デジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化を図る。 ・県立高校に対して、ICTを活用した文理横断的な探究的な学びを強化するために必要な環境整備の経費を支援する。	69,882	学校教育課
50	教員業務支援員配置事業費補助 県内の市町立学校、県立中学校及び特別支援学校において、地域の人材を教員業務支援員（旧称スクール・サポート・スタッフ）として配置し、教員の専門性を必要としない業務に従事することで、教員の負担軽減を図る。 ・市町教育委員会への補助 ・県立中学校、特別支援学校への配置	45,628	教職員課
51	校舎等施設整備費（中学校、高校、特別支援） 県立中学校、県立高等学校及び特別支援学校施設の改修等を行い、環境改善を図る。 ・中学校：電話交換設備更新工事 ・高校：グラウンド整備 等 ・特別支援学校：市道側法面改修工事 等	542,291	教育総務課
52	長期保全整備事業費（中学校、高校、特別支援） 「佐賀県立学校施設長寿命化計画」（H31年3月策定）に基づき、学校施設の計画的な保全工事等を行い、施設の長寿命化を推進する。 ・建築：屋上防水工事、外壁改修工事 ・電気：消防設備更新工事、受変電設備改修 ・衛生：給排水管改修工事 等	1,174,596	教育総務課
53	奨学のための給付金事業費 高校生等が在る低所得世帯に対して、奨学給付金を給付することにより、保護者の負担軽減を図る。また、物価高騰により増加した学用品等に係る負担軽減のため、上乗せ給付を行う。	315,069	教育総務課
54	学校管理運営費（中学校）（高校）（令和5年度国補正） 県立中学校、県立高等学校におけるエネルギー価格高騰に伴う保護者負担電気料の増額分に対して支援を行うことで、保護者の負担軽減を図る。	15,388	教育総務課
55	学校給食費等支援事業費 物価高騰が続いている中、給食及び弁当の原材料費高騰分に対し支援することで、給食等の質や保護者負担等に転嫁することなく安全・安心な給食等の提供を行う。	25,473	保健体育課
56	育英資金貸付金（育英資金特別会計） 経済的理由により修学が困難な高校生に対し育英資金を貸与して、将来有為な人材を育成する。 ・貸与額：基礎額 18,000円、私立学校加算額 12,000円 他 ・新規貸付枠：397人	356,919	教育総務課

令和6年5月定例教育委員会資料

(令和6年5月23日)

報告事項

【公 開】

佐賀県教育委員会

令和6年度全国高等学校総合体育大会(SAGA インターハイ)の
準備状況について

<今後の取組>

1 広報

- ・直前応援イベントの開催、マスメディア(テレビ・新聞)等による広報活動に取り組み、SAGA インターハイに関して「する」「みる」「ささえる」機運の醸成を図る。

<主なもの>

- ・県庁舎展望ホールでのPR展示(5月23日～)
- ・ゆめタウン佐賀での直前応援イベントの開催(6月22日)
- ・九州佐賀国際空港での歓迎装飾(7月上旬～)

2 宿泊・衛生

- ・宿泊施設及び弁当調製施設等における食中毒予防や衛生管理の指導を継続して実施する。また、株式会社JTBが実施する選手・監督等の配宿業務(宿泊申込み受付、宿割り)を支援する。

3 競技運営

- ・大会参加申込み受付、組合せ抽選会、監督会議及び会場設営等を行うとともに、役員・補助員の研修とリハーサルを実施し大会本番に臨む。

4 高校生活動

- ・県高等学校体育連盟において、大会を「ささえる」高校生の自主的な取組として、競技会場等の歓迎装飾及び来県者へのおもてなし活動等の準備を進める。

<主なもの>

- ・手荷物預かり所の設置(SAGAアリーナ)
- ・草花装飾(各競技会場)
- ・掲示物による装飾(SAGA アクア)
- ・選手へ配布する大会記念品の作製
- ・競技運営補助(各競技会場)

5 その他

- ・医療救護対策(熱中症対策の実施、救護所の設置等)、警備・防災・危機管理対策(警備員の配置等)、輸送交通対策(計画輸送の実施、交通誘導員の配置等)についても関係機関や委託事業者と連携して準備を進める。

令和5年度特別支援学校高等部卒業生の就職状況について

1 特別支援学校高等部卒業生就職状況

(各年度3月31日現在)

教育振興課特別支援教育室調

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
高等部卒業生総数 (A) (専攻科卒業生含む)	150 人	137 人	147 人	161 人	133 人
就職希望者数 (B)	50 人	52 人	64 人	55 人	57 人
就職内定者数 (C)	49 人	52 人	63 人	53 人	57 人
就職希望者の就職率 (D=C/B)	98.0%	100.0%	98.4%	96.4%	100.0%
就職者率 (E=C/A)	32.7%	38.0%	42.9%	32.9%	42.9%

2 特別支援学校高等部卒業生就職内定者以外の主な進路先

(令和6年3月31日現在)

教育振興課特別支援教育室調

	進学	社会福祉施設等入所・通所	その他
該当者数 (表1:A-C=76人)	4 人	68 人	4 人

※ その他：在宅、福祉型知的障害児入所施設への継続入所

令和7年度佐賀県公立学校教員採用選考試験の 受験申込状況について

標記試験については、4月10日から4月30日までの間を受験申込期間とし、期間終了後、資格等の審査を行い、764人の受験申込を受け付けました。

その結果、来年度の採用予定者数362人に対して、倍率は2.1倍となりました。

※ 受験申込状況の詳細については、別添資料を御覧ください。

【本年度の特徴】

- ・ 申込者数については、昨年の747人と比べ、17人上回りました。これは、小学校、高等学校、養護教諭の試験区分で申込者数が増加したためです。
- ・ 倍率については、昨年の2.0倍と比べ、0.1ポイント上回りました。これは、採用予定者数が昨年とほぼ同水準であるのに対し、申込者数が昨年と比べ17人増加したためです。
- ・ 今年から実施する3年生チャレンジ受験（令和8年度の採用に係る）の申込者数は、144名でした。

過去5年間の申込状況（年度は採用年度を表す）

（単位：人、倍）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
申込者数	1,029	956	857	747	764
採用予定者数	363	356	368	365	362
倍率	2.8	2.7	2.3	2.0	2.1

※昨年同時期比としているため、秋選考実績は含まない。

<参考>

教員採用選考試験第一次試験

- 1 期 日 令和6年6月16日（日曜日）
- 2 場 所 ○ 佐賀県立佐賀西高等学校
※ 小学校教諭等（小・中併願希望者を除く）受験者、特別支援学校教諭等受験者、養護教諭等受験者
○ 佐賀県立佐賀北高等学校
※ 小学校教諭等（小・中併願希望者）受験者、中学校教諭等受験者、高等学校教諭等受験者
- 3 合格発表 令和6年7月5日（金曜日）（予定）
※ 佐賀県庁の掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、受験者全員に合否を通知します（県のホームページにも掲載しますが、必ず掲示板又は通知文書で確認をしてください）。

教員採用選考試験第二次試験

- 1 期 日 令和6年7月27日（土曜日）～7月30日（火曜日）
- 2 場 所 佐賀県立致遠館高等学校、佐賀県立佐賀商業高等学校
- 3 合格発表 令和6年8月23日（金曜日）（予定）
※ 第一次試験と同じ方法で発表します。

(内訳)

令和7年度佐賀県公立学校教員採用選考試験受験申込状況等について

1 申込状況

(単位:人、倍)

試験区分	令和7年度			令和6年度			対前年度比 A-C
	申込者数 A	採用予定 者数 B	倍率 A/B	申込者数 C	採用予定 者数 B	倍率 A/B	
小学校	225	約 170	1.3	213	約 180	1.2	+12 (+0.1ポイント)
中学校	169	約 110	1.5	178	約 105	1.7	△9 (△0.2ポイント)
高等学校	215	約 37	5.8	213	約 34	6.3	+2 (△0.5ポイント)
特別支援学校	54	約 36	1.5	62	約 36	1.7	△8 (△0.2ポイント)
養護教諭	101	約 9	11.2	81	約 10	8.1	+20 (+3.1ポイント)
栄養教諭	—	—	—	—	—	—	—
合計	764	約 362	2.1	747	約 365	2.0	+17 (+0.1ポイント)

2 中学校、高等学校申込者の教科(科目)別内訳

(単位:人、倍)

試験区分	教科	科目	令和7年度			令和6年度		対前年度比 A-C
			申込者数 A	採用予定 者数 B	倍率 A/B	申込者数 C		
中学校	国語		11	約 20	0.6	14	△3	
	社会		33	約 15	2.2	35	△2	
	数学		18	約 16	1.1	24	△6	
	理科		12	約 14	0.9	14	△2	
	英語		19	約 20	1.0	21	△2	
	音楽		13	約 4	3.3	9	+4	
	美術		3	約 3	1.0	3	0	
	保健体育		52	約 10	5.2	51	+1	
	技術		2	約 3	0.7	3	△1	
家庭		6	約 5	1.2	4	+2		
高等学校	国語		13	約 3	4.3	12	+1	
	地理歴史	日本史	17	約 1	17.0	16	+1	
		世界史	11	約 1	11.0	10	+1	
		地理	6	約 2	3.0	2	+4	
	数学		22	約 4	5.5	22	0	
	理科	物理	9	約 1	9.0	10	△1	
		化学	6	約 1	6.0	5	+1	
		生物	8	約 2	4.0	7	+1	
	英語		10	約 3	3.3	12	△2	
	芸術	音楽	1	約 1	1.0	4	△3	
		美術	4	約 1	4.0	7	△3	
		書道	—	約 —	—	5	—	
	保健体育		64	約 2	32.0	64	0	
	家庭		5	約 2	2.5	4	+1	
	情報		7	約 1	7.0	5	+2	
	農業	農業	7	約 2	3.5	6	+1	
	工業	機械	2	約 3	0.7	1	+1	
電気		7	約 3	2.3	6	+1		
建築		0	約 1	0.0	3	△3		
土木		2	約 1	2.0	1	+1		
商業		14	約 2	7.0	11	+3		

3 特別支援学校申込者の学部別内訳

(単位:人、倍)

試験区分	令和7年度			令和6年度	対前年度比 A-C	
	申込者数 A	採用予定 者数 B	倍率 A/B	申込者数 C		
特別支援学校	小学部	20	約 36	1.5	24	△4
	中学部	13			18	△5
	高等部	21			20	+1

4 特別選考申込状況 (再掲)

選考区分	令和7年度 申込者数A	令和6年度 申込者数B	対前年度比 A-B
障害者特別選考	6	3	+3
社会人特別選考	0	0	0
スポーツ・芸術特別選考	1	2	△1
小学校特別選考(英語)	4	0	+4
小学校特別選考(算数)	2	2	0
小学校特別選考(理科)	7	3	+4
小学校特別選考(特別支援教育)	2	3	△1
さがUJIターン現職特別選考	10	13	△3
さが離島特別選考	27	34	△7

- (1)社会人特別選考 受験者なし
- (2)スポーツ・芸術特別選考 高校保体1人
- (3)さがUJIターン現職特別選考 小学校7人、中学校3人
- (4)さが離島特別選考 小学校4人、中学校16人、養護教諭7人
- 5 大学・大学院推薦制度 小学校36人、中学校6人

6 大学院等進学希望者及び大学院等在籍者の特例申請者数

申請者数 25人 (令和6年度 21人)

内訳:進学希望者数 17人(令和6年度 15人)、院1年在籍者数 8人(令和6年度 6人)

7 3年生チャレンジ受験申込状況

試験区分	教科	科目	令和7年度 申込者数
小学校			56
中学校	国語		7
	社会		10
	数学		3
	理科		6
	英語		2
	音楽		2
	美術		2
	保健体育		7
	技術		0
	家庭		1
高等学校	国語		4
	地理歴史	日本史	2
		世界史	0
		地理	3
	数学		4
	理科	物理	3
		化学	1
		生物	1
	英語		3
	芸術	音楽	1
		美術	0
	保健体育		6
	家庭		2
	情報		0
	農業	農業	0
	工業	機械	0
		電気	1
建築		0	
土木		0	
商業		2	
特別支援学校			7
養護教諭			8
合計			144

令和6年度 第62回 佐賀県高等学校総合体育大会について

令和6年5月定例教育委員会
事務局報告事項 保健体育課

日程・会場一覧

令和6年4月15日現在

競技番号	競技	種目	5月									6月	会場
			24金	25土	26日	27月	28火	29水	30木	31金	1土		
総	合	開	☆										SAGAアリーナ
1	陸上	競技	●	●	●	●							SAGAスタジアム(陸上競技場)、セカスタ(第二競技場)、多目的練習場
2	ラグビー	フットボール		●		●							佐賀工業高校屋外運動場
3	サ	ッカ	●	● 男女	●			●	●			● 男女	24金 佐賀市健康運動センター人工芝 25土 佐賀FC、龍谷高校サッカー場、ブラックモンブランフットボールセンター(2面) 佐賀北G、清和高G、西多久多目的運動広場人工芝 26日 佐賀市健康運動センター人工芝、龍谷高校サッカー場、嬉野みゆき球技場 28火 SAGAサンライズパーク ボールフィールド(球技場北) 佐賀市健康運動センター人工芝 29水 佐賀市健康運動センター天然芝(アップ場:人工芝) 31金 SAGAスタジアム(陸上競技場)
4	バスケット	ボール		●	●	●	●						25土 唐津工体、唐津東体、唐津西体、厳木高体 26日 唐津工体、唐津東体、唐津西体、厳木高体 27月 唐津市文化体育館 28火 //
5	バレー	ボール	●	●	●								24金 吉野ヶ里文化体育館、鳥栖市民体育館、鳥栖工体、鳥栖商体、三養基体 25土 // // 26日 // //
6	ソフト	テニス	●	●	●	▲							SAGAサンライズパーク庭球場
7	卓	球	●	●	●								24金 唐津市文化体育館 25土 唐津市文化体育館 26日 佐賀市立体育館
8	柔	道	●	●									基山町総合体育館アリーナ
9	剣	道			●	●							SAGAプラザ(総合体育館)
10	弓	道	●	●	●								多久市緑が丘弓道場
11	相	撲		●									唐津市体育の森公園相撲場
12	体	操		●	●								SAGAプラザ(総合体育館) 体操場
13	体	操	●	●									SAGAプラザ(総合体育館)
14	登	山	●	●	●								蛤岳・脊振山系
15	ソフト	ボール		●	●	▲							佐賀市健康運動センター
16	ハンド	ボール	●	●	●								神埼中央公園体育館
17	水	競		●	●								SAGAアクア
		泳				●							SAGAアクア ダイビングプール
		水	●										SAGAアクア
18	テ	ニス	●	●	●	●	▲						佐賀県立森林公園庭球場 24日～28日 ※28日は予備日 松浦河畔公園庭球場 24日～27日 ※27日は予備日
19	バド	ミントン	準備	●	●	●							SAGAアリーナ
20	ウエイト	リフティング											● 有田工業高校ウエイトリフティング道場
21	ロー	イング		●									唐津市松浦川ポートハウス
22	ヨ	ット		●	●								佐賀県ヨットハーバー
23	自	転											● 武雄競輪場
24	レス	リング		5/19(日)									鳥栖工業高校 鳥栖レスリングセンター
25	ホ	ッ		●									伊万里実業高校商業キャンパスグラウンド
26	な	ぎ											● 牛津高校体育館
27	ア	ー		●	●								佐賀県立森林公園アーチェリー場
28	ボ	ク	●	●	●								SAGAプラザ(総合体育館)ボクシング場
29	空	手			●								佐賀東高校新体育館
30	カ	ヌ		●	●								佐賀市富士しゃくなげ湖水上競技場
31	フ	ェ		●									SAGAプラザ(総合体育館)フェンシング場
32	少	林		●									武雄高校体育館
	駅	伝											調整中
	走												調整中
	ラグビー	フットボール											10月26日(土) 佐賀工業高校屋外運動場(1回戦) 11月 2日(土) SAGAスタジアム(陸上競技場)(決勝)

☆総合開会式 ●競技 ▲予備日 (Gはグラウンド 体は体育館)

令和6年度佐賀県高等学校 定時制通信制体育大会	6月2日(日)	☆開会式:佐賀工業高等学校体育館 陸上競技:SAGAサンライズパーク セカスタ(第二競技場) バスケットボール:佐賀工業高等学校体育館 バレーボール:佐賀商業高等学校体育館 卓球:SAGAバラスポーツセンター
	5月18日(土)	軟式野球:佐賀市立スポーツパーク川副多目的広場 ◇雨天予備日 5月25日(土) …佐賀市立久保田グラウンド